

---

**平成28年3月期  
第2四半期決算 説明会**

---

**2015年11月24日**

**阪和興業株式会社**

- ・ 売上高は、石油製品価格の下落や鋼材市況の低迷などから、前年同期比8.5%減の7,882億16百万円となりました。
- ・ 利益面は、食品事業の減益などにより、営業利益段階では9.4%の減益だったものの、為替差損の減少や特別利益の計上などにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比52.0%増の60億53百万円となりました。
- ・ 通期業績は、以下を見込んでいます。

売上高	1兆6,500億円	(従来予想比	△1,500億円)
営業利益	200億円	(従来予想比	△23億円)
経常利益	180億円	(従来予想比	△20億円)
当期純利益 (親会社株主帰属分)	120億円	(従来予想	据え置き)
- ・ 配当については、中間配当を8円に、期末配当も8円とすることを予定しています。

# 経営成績(連結)

(単位:百万円)

	当四半期 (累計)	前四半期 (累計)	増減比
売上高	788,216	861,116	△8.5%
売上総利益	27,431	27,369	+0.2%
販管費	19,260	18,350	+5.0%
営業利益	8,170	9,019	△9.4%
営業外収益	2,337	1,301	+79.6%
営業外費用	3,555	3,460	+2.7%
経常利益	6,953	6,861	+1.3%
特別損益	1,908	—	+100.0%
税引前純利益	8,861	6,861	+29.2%
法人税等	2,805	2,852	△1.6%
四半期純利益	6,055	4,009	+51.0%
親会社株主帰属分	6,053	3,981	+52.0%
非支配株主帰属分	1	27	△96.3%
包括利益	1,393	7,388	△81.1%

## ・売上高

主に石油化成品事業、鉄鋼事業の減収により、前年同期比8.5%の減少。

## ・販管費

前年同期比5.0%増加。  
(内、新規連結影響3.0%)  
人件費約+6億円。円安による海外経費増も一因。

## ・営業外損益

貸倒実績率の低下による一般貸倒引当金の戻入益約6億円計上。  
為替差損減少も、持分法投資損失約13億円発生。

## ・1株当たり純利益

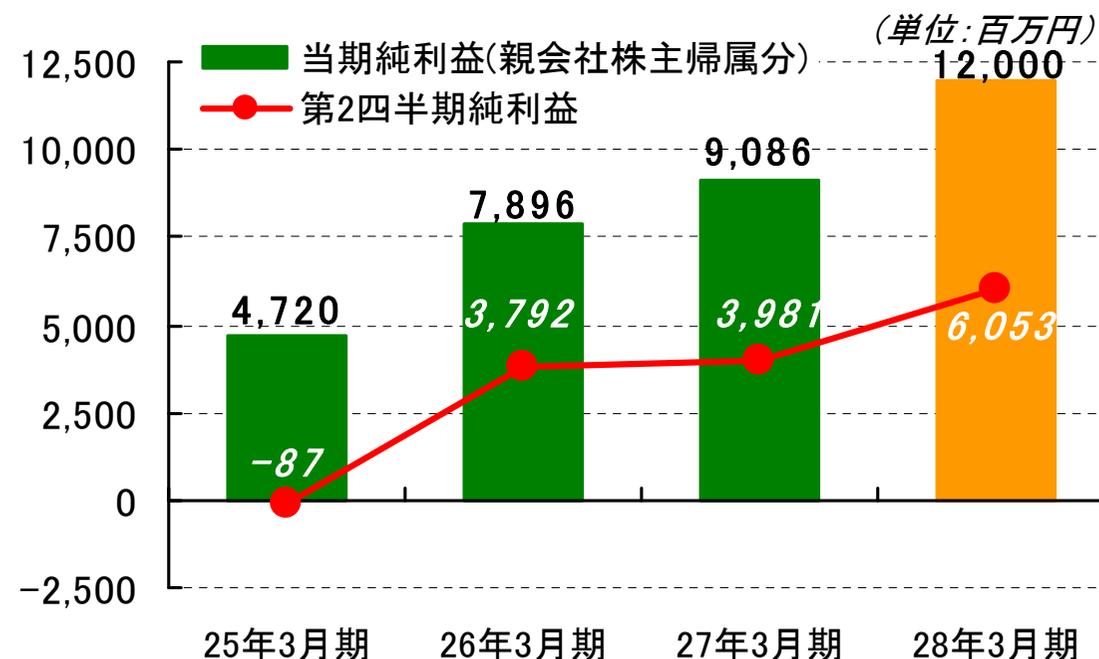
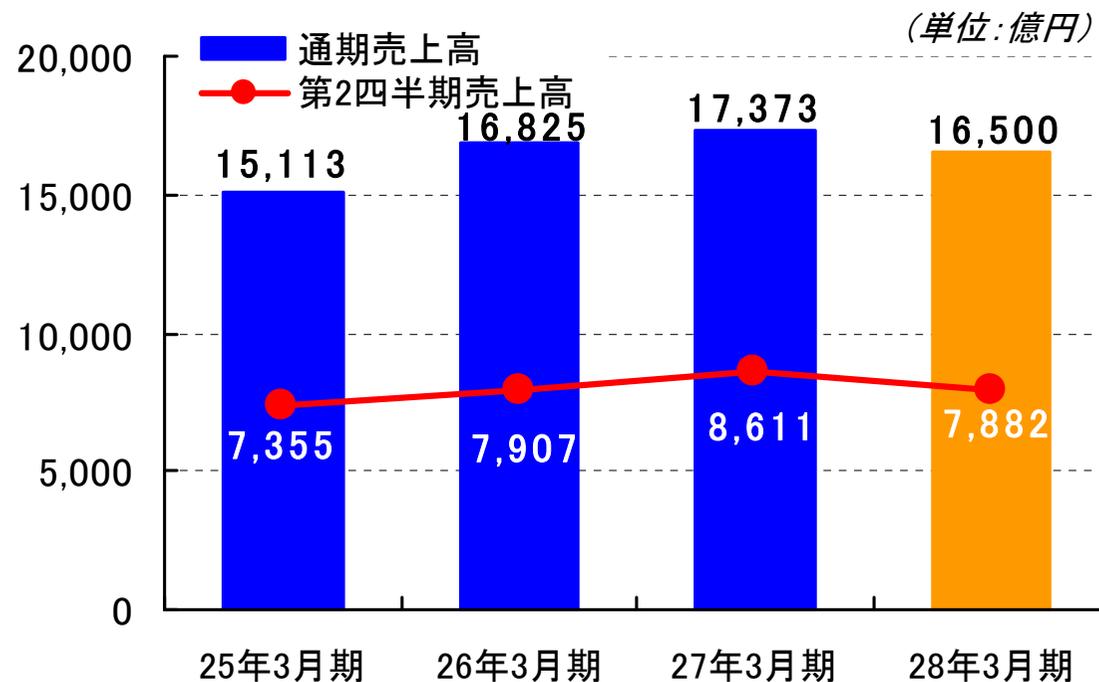
29円22銭(+10円01銭)

# 業績推移（連結）

米国経済は力強さに欠けるも概ね堅調、欧州経済は不透明、中国も経済成長が鈍化、新興国も金融環境や地政学リスクにより不安定で停滞感があった。

国内需要は建設需要の停滞や輸出不振等により、アベノミクスや日銀の金融緩和効果が薄れた。

第2四半期までの売上高は石油製品や鋼材など市況商品の価格下落により、減収に。最終利益は増益となったものの、利ザヤの取りにくい環境だった。



(単位:百万円)

	当四半期末	前期末	前期末比
総資産	632,783	651,456	△2.9%
流動資産	484,573	510,377	△5.1%
固定資産	148,209	141,078	+5.1%
負債	490,133	508,706	△3.7%
有利子負債	261,739	272,575	△4.0%
純資産	142,649	142,749	△0.1%
株主資本	131,281	126,320	+3.9%
その他の包括利益 累計額	10,002	15,094	△33.7%
非支配株主持分	1,365	1,334	+2.3%

- ・総資産**  
 売上高減少に伴う売上債権や  
 たな卸資産の減少などにより  
 、2.9%の減少。
- ・有利子負債**  
 運転資金需要の低下により  
 、短期借入金・CPの返済が  
 進み4.0%の減少となり、ネッ  
 トDERも1.7倍に改善。
- ・純資産**  
 四半期純利益の積み上がり  
 以上に、その他有価証券評価  
 差額金や繰延ヘッジ損益が減  
 少したため、0.1%の減少。  
 自己資本比率 22.3%  
 (+0.6pt)  
 1株当たり純資産  
 681円84銭(△0円62銭)

# キャッシュ・フローの状況（連結）

（単位：百万円）

	当四半期 （累計）	前四半期 （累計）	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	29,313	Δ24,679	+53,992
投資活動による キャッシュ・フロー	Δ12,395	Δ2,036	Δ10,359
財務活動による キャッシュ・フロー	Δ17,754	31,946	Δ49,700
現金及び現金同等物 期末残高	24,634	21,559	+3,075

- ・ 営業活動CF  
売上高の減少に伴い運転資金の回収が進み、約293億円の収入。
- ・ 投資活動CF  
大阪本社ビルの竣工や長期貸付の実行などにより、約123億円の支出。
- ・ 財務活動CF  
運転資金需要の低下に伴い、短期借入金・CPの返済が進み、約177億円の支出。

# 事業セグメント別の状況（連結）

## 売上高

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	406,318	423,679	△4.1%
金属原料	73,966	65,447	+13.0%
非鉄金属	45,264	41,584	+8.8%
食 品	47,705	43,920	+8.6%
石油・化成品	150,042	231,193	△35.1%
報告セグメント計	723,296	805,825	△10.2%
その他	129,230	115,930	+11.5%
合 計	852,527	921,755	△7.5%
調整額	△64,310	△60,639	△6.1%
PL計上額	788,216	861,116	△8.5%

## セグメント利益

（単位：百万円）

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄 鋼	6,348	6,810	△6.8%
金属原料	1,303	△27	—
非鉄金属	515	175	+194.3%
食 品	△164	593	—
石油・化成品	1,006	1,204	△16.4%
報告セグメント計	9,009	8,757	+2.9%
その他	518	355	+45.9%
合 計	9,528	9,112	+4.6%
調整額	△2,575	△2,251	△14.4%
PL計上額	6,953	6,861	+1.3%

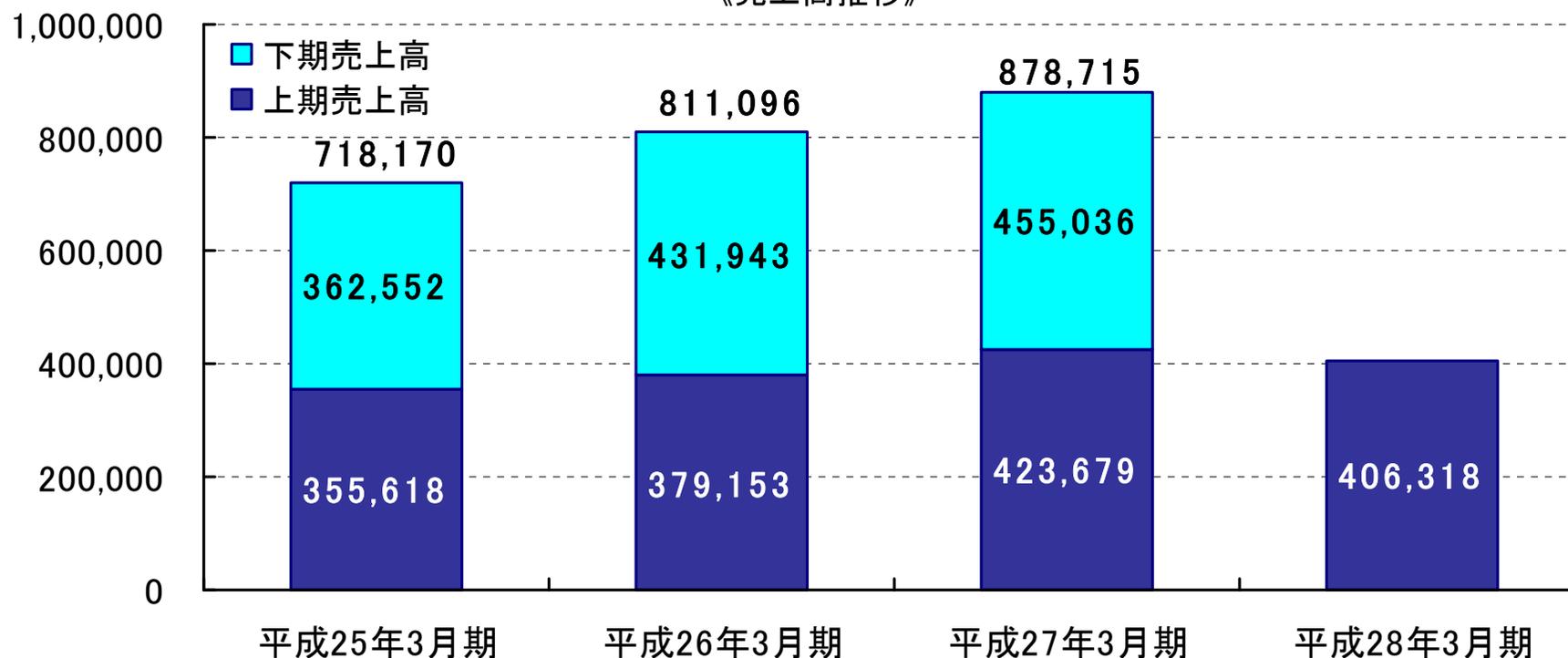
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	406,318	6,348	1.6%
前第2四半期	423,679	6,810	1.6%

建築土木向けは依然として人手不足などによる工事進捗の遅れなどから停滞。製造業向け需要も輸出の不振等により需要が減退した。持分法適用会社のCosmoSteel Holdingsの株価下落に伴うのれんの一括償却も利益を押し下げた。

(単位:百万円)

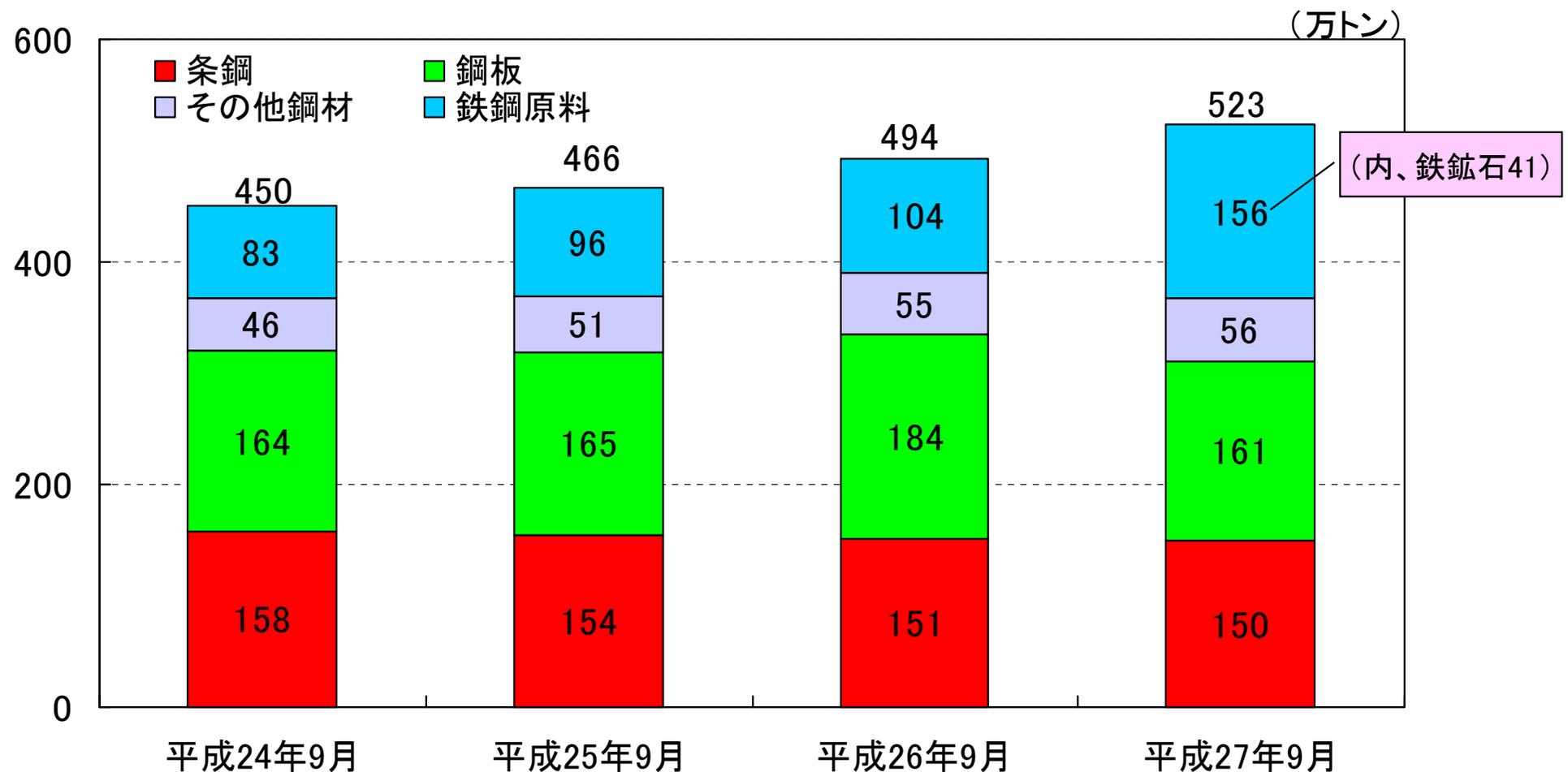
《売上高推移》



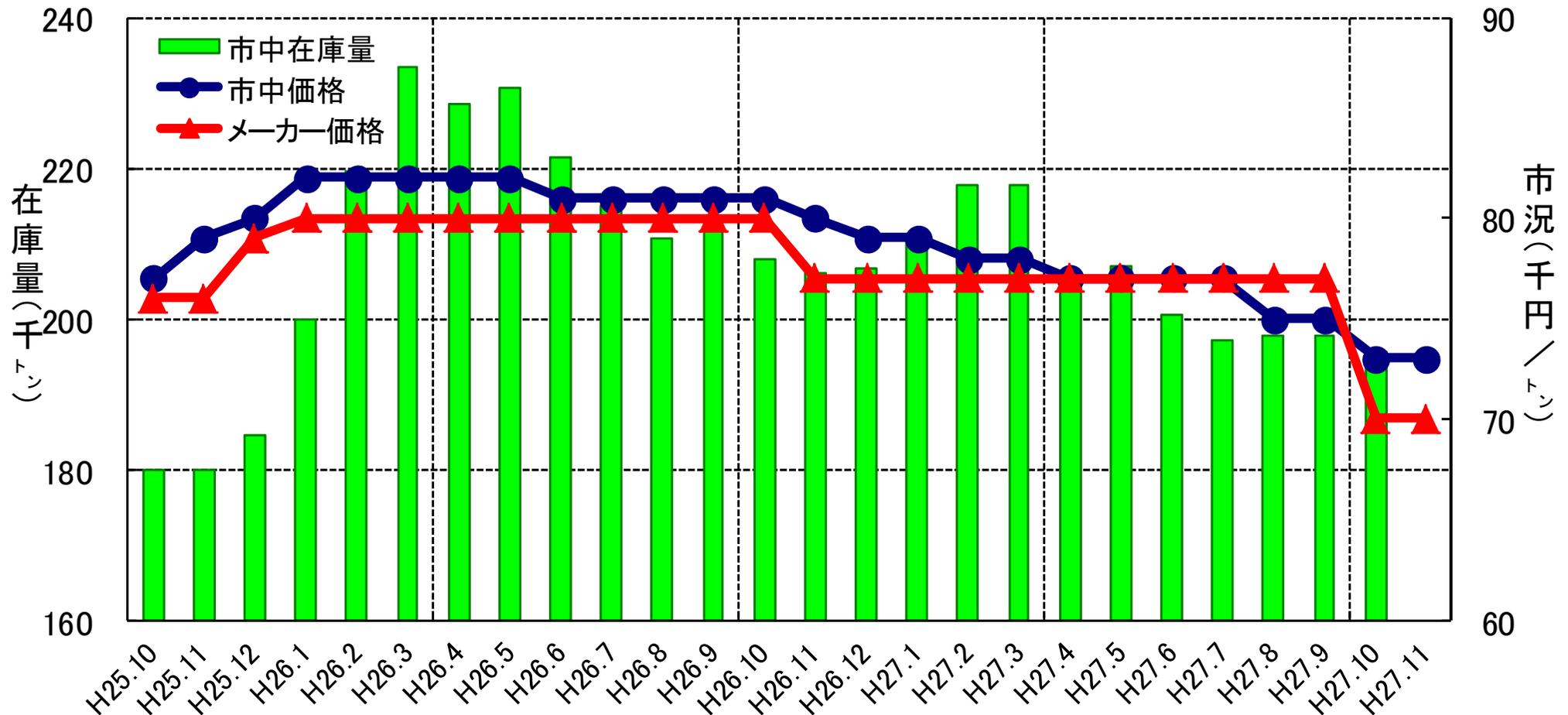
# 鉄鋼事業 取扱量推移 (単体)

条鋼類は国内建設関連の停滞から横ばい推移となったが、鋼板類は製造業の稼働水準の低下や輸出の減少、建設向け敷板・切板需要の停滞などにより減少。

鉄鋼原料の増加は、鉄鉱石の三国間取引の他、スクラップやスラブの取扱い増によるもの。



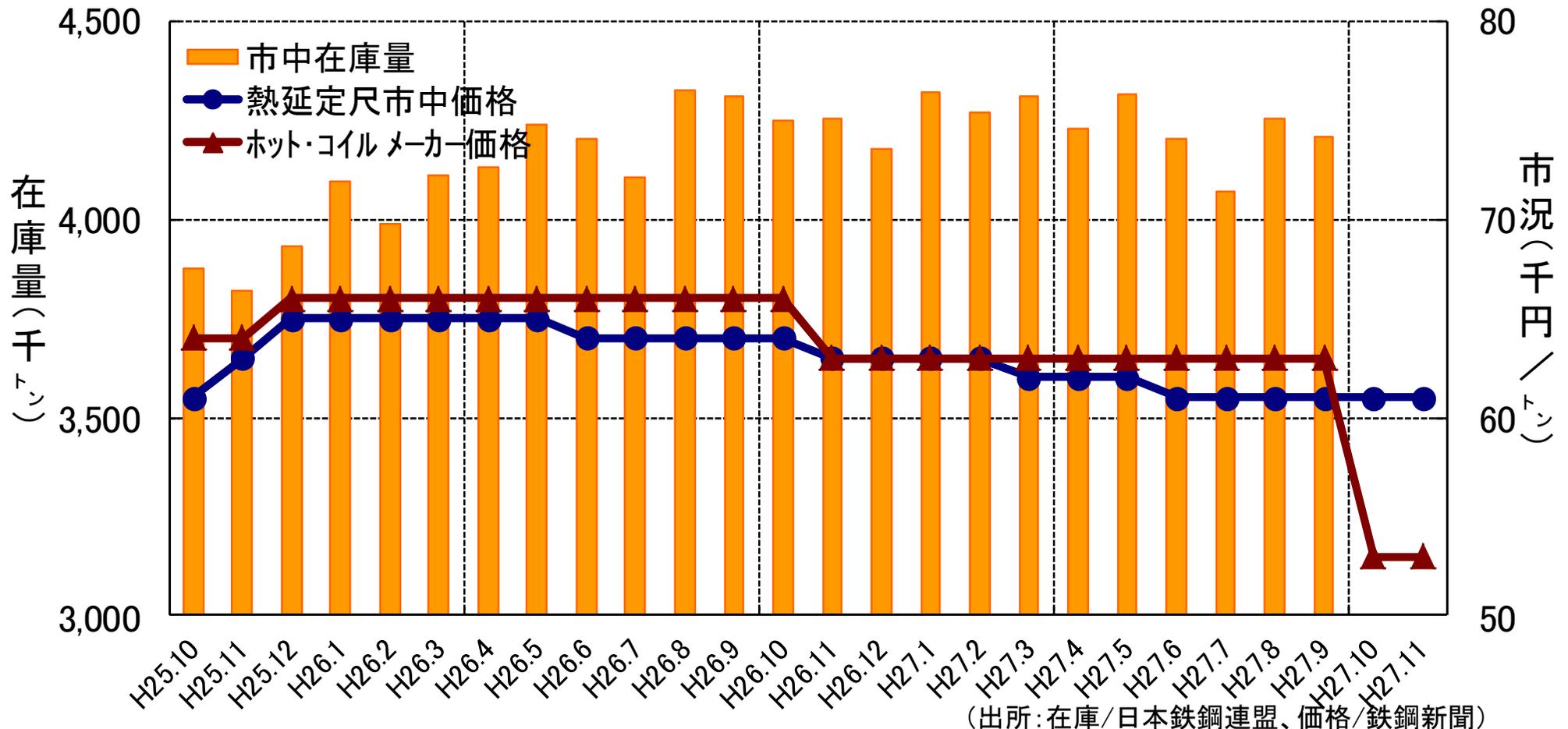
人手不足による工期遅れなどのため、建設物件向けの需要は頭打ち状態に。  
荷動きの悪さや原料価格の下落により、市況はジリ安基調で推移。  
将来需要を見込んで、鉄鋼メーカーの価格維持姿勢強く、流通の収益を圧迫。



(出所: 在庫/ときわ会、価格/鉄鋼新聞)

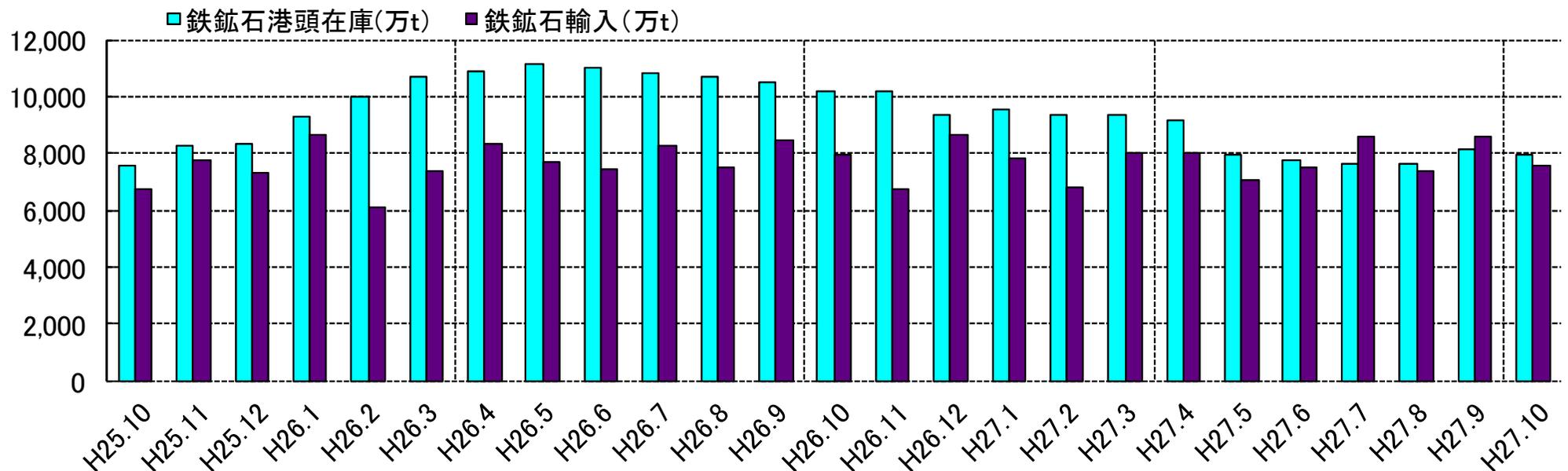
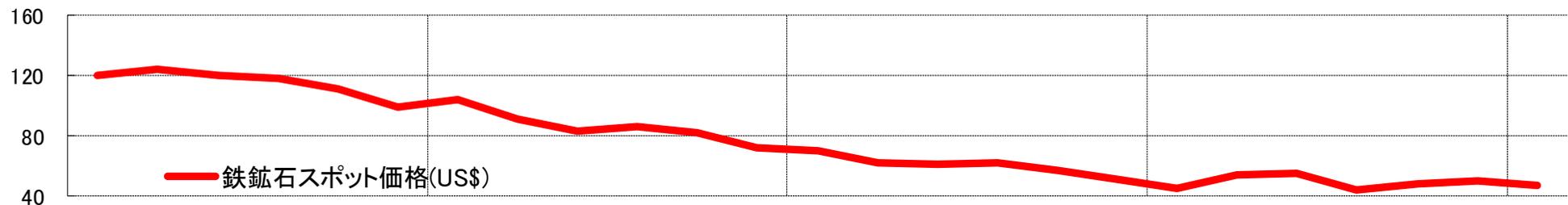
国内需要の伸び悩みや海外景気の停滞に伴う輸出不振により、製造業の稼働も停滞気味となり、鋼板需要は低迷。市中在庫も高止まりし、市況は弱含みで推移した。

## 【薄板3品 市中在庫量と熱延鋼板市況の推移】



中国での鋼材需要の減退の中にあっても、能力を増強した大手山元の安値オフアは続き、輸入鉄鉱石市況は大幅に下落。足下は50ドルを下回って、なおじり安推移。

## 【中国の鉄鉱石市場】

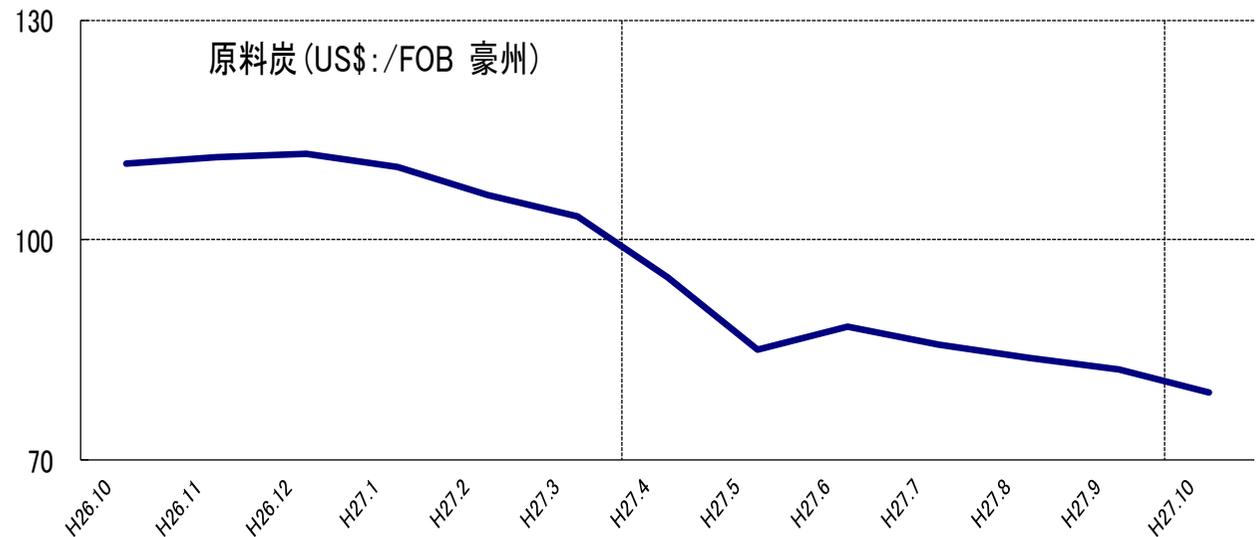


(出所：我的鋼鐵、中国海関統計)

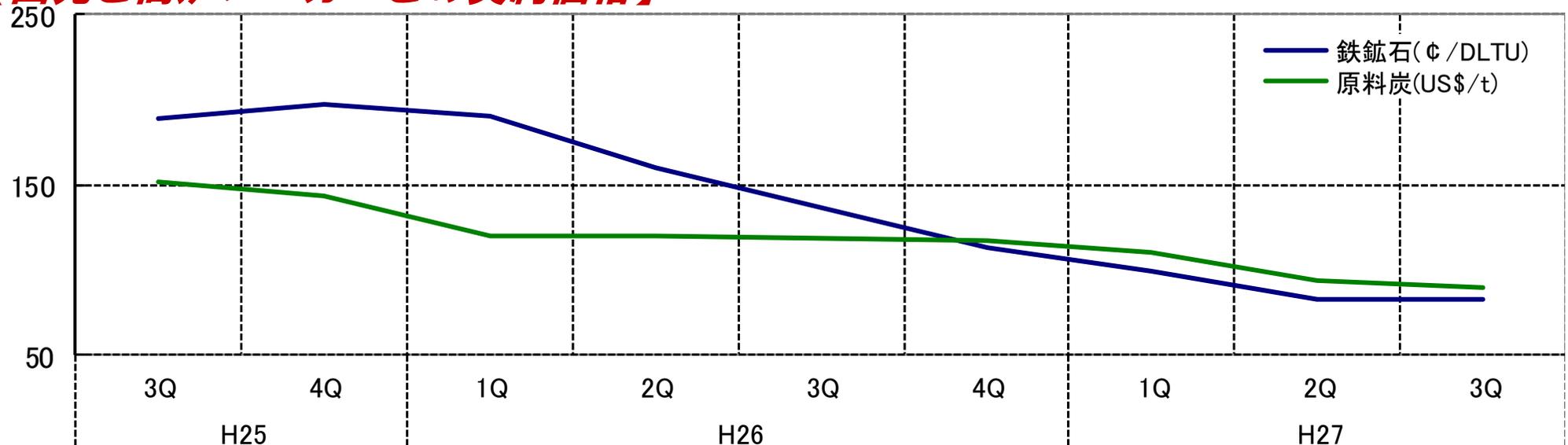
### 【原料炭価格の推移】

原料炭需要も鉄鉱石同様に下落。中国国内炭との競合も下げ足を速めている一因。

今期の山元との契約価格は、スポット価格の下げにより、期を追うごとに下落した。



### 【山元と高炉メーカーとの契約価格】

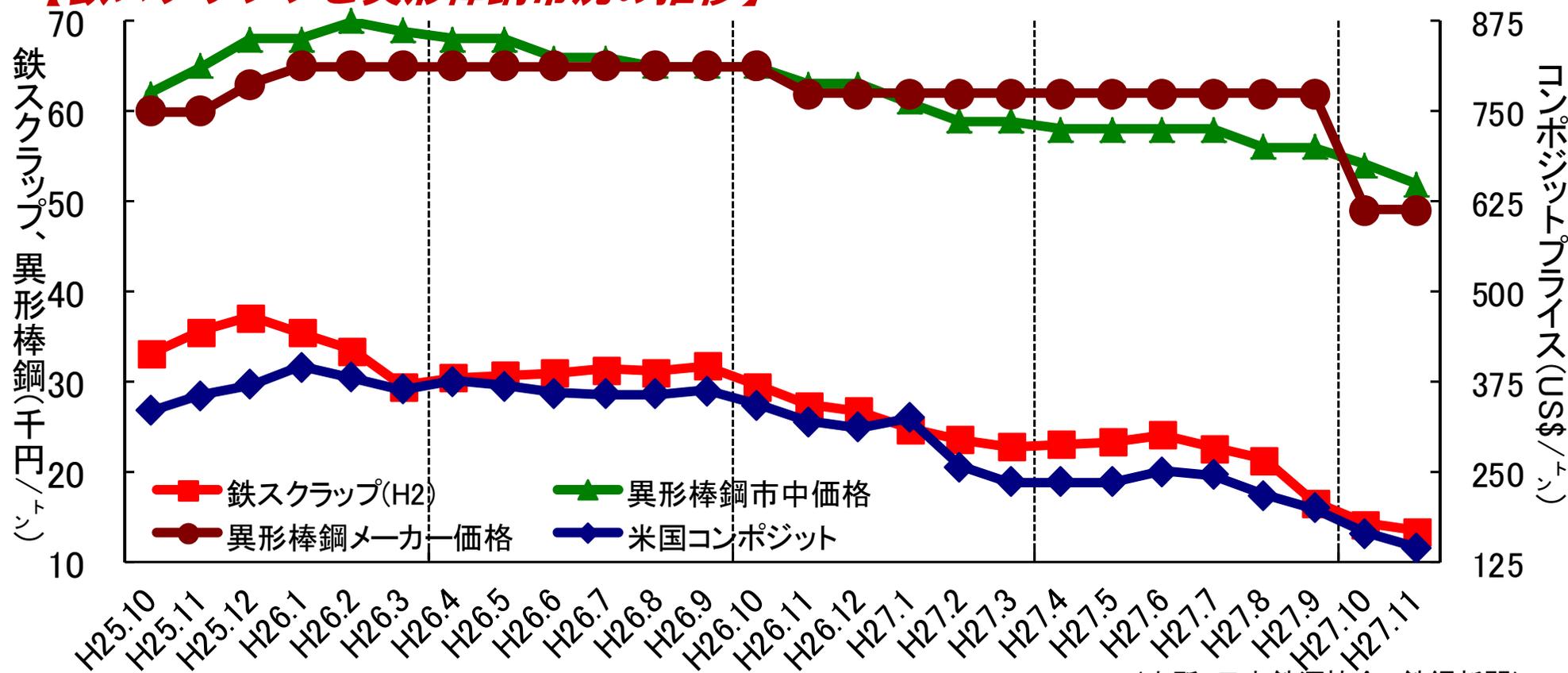


(出所:各種報道)

鉄スクラップの国際市況は、鉄鋼主原料の価格下落による中国からの割安なビレット輸出に押されて、下落した。

日本の鉄筋メーカーは先々の建設需要期待から強気姿勢を維持していたが、工事出件の停滞に加え、スクラップの大幅下落により、強い下げ圧力にさらされた。

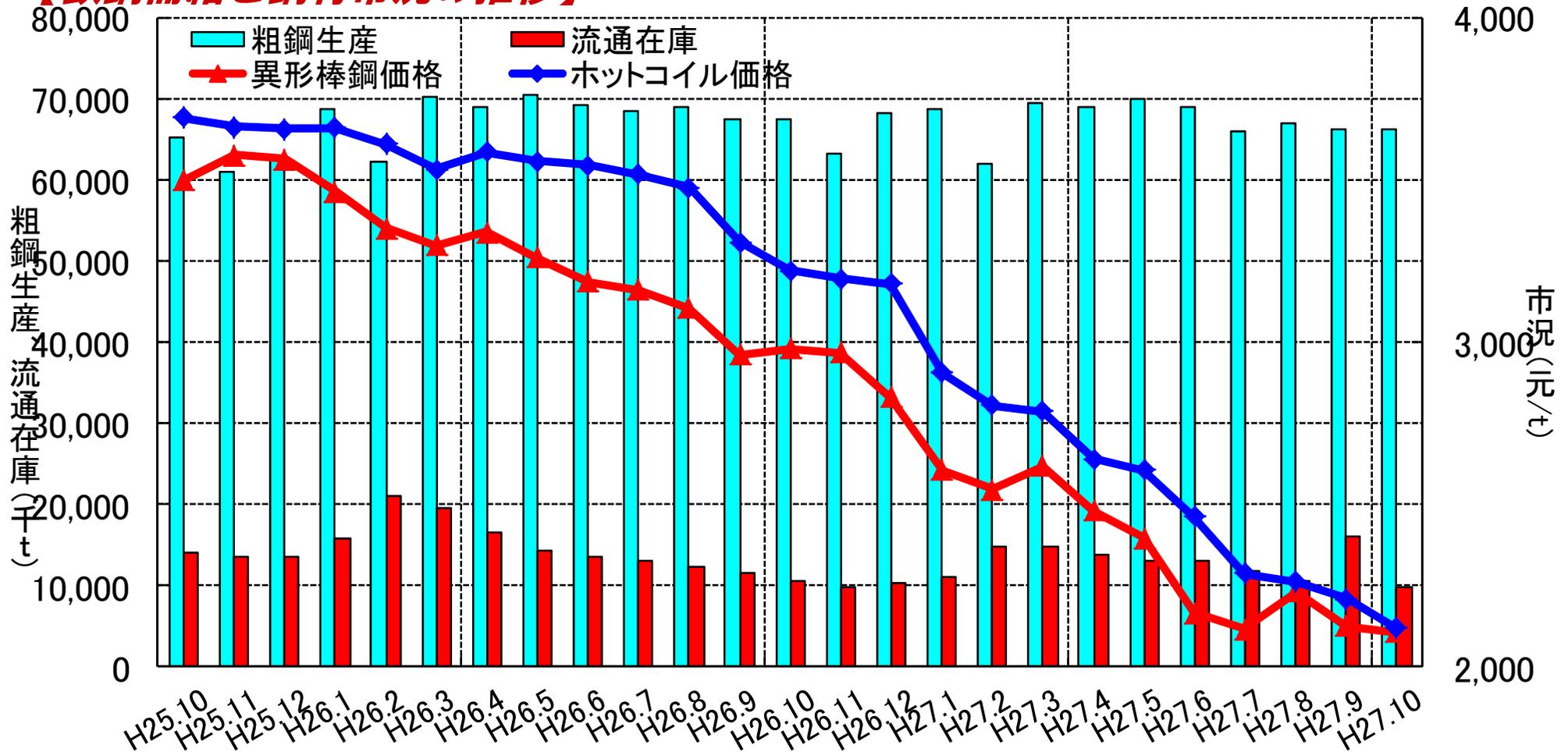
## 【鉄スクラップと異形棒鋼市況の推移】



(出所: 日本鉄源協会 鉄鋼新聞)

鋼材需要が低迷する中でも、粗鋼生産は高い水準に留まり、生産調整が進んでいない。市中価格は需要低迷を反映して大きく下落し、輸出も拡大傾向にある。

## 【鉄鋼需給と鋼材市況の推移】



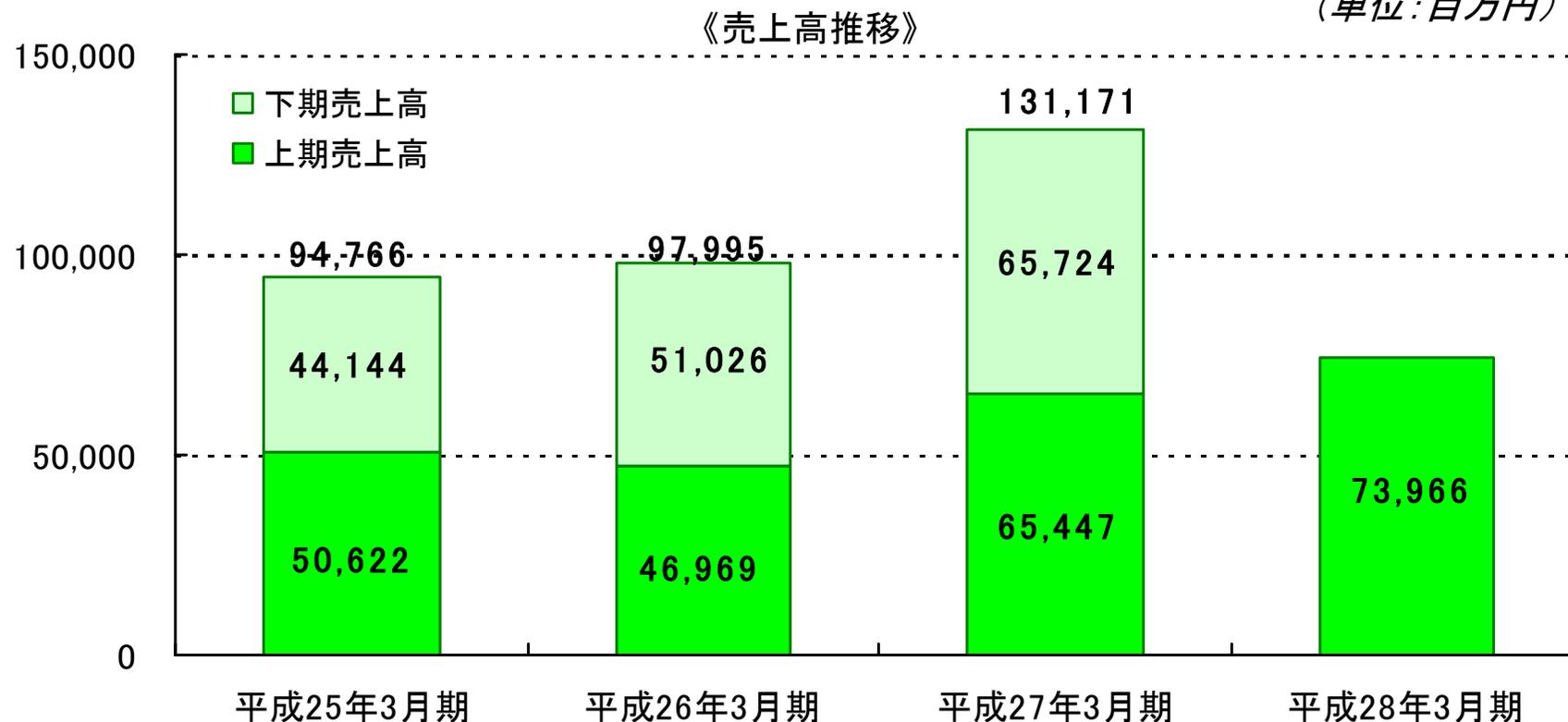
(出所: 日本鉄鋼連盟)

(単位:百万円)

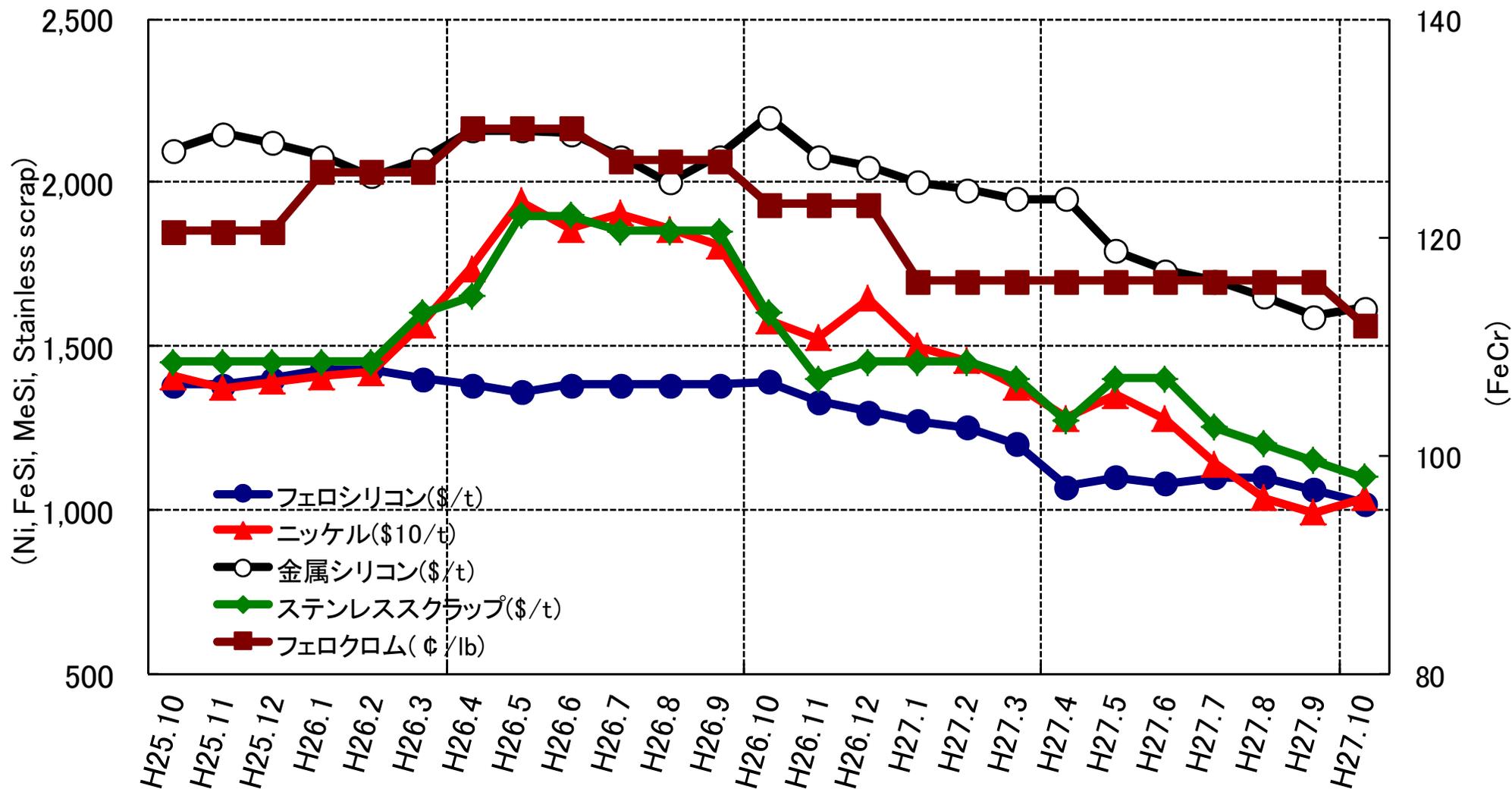
	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	73,966	1,303	1.8%
前第2四半期	65,447	△27	△0.0%

インドネシアのニッケル鉱石禁輸により中国のニッケル銑鉄製造が停滞し、地金需要が増加、電池等向けのニッケル化合物の拡販も寄与。利益面では、前年同期の円安進行による多額の為替差損がなくなり、回復。

(単位:百万円)



ステンレス需要の低迷による関連原料の需要減少に加え、原油を始めとする国際商品市況の弱い基調を反映し、全般的に下げ相場の時期が続いた。



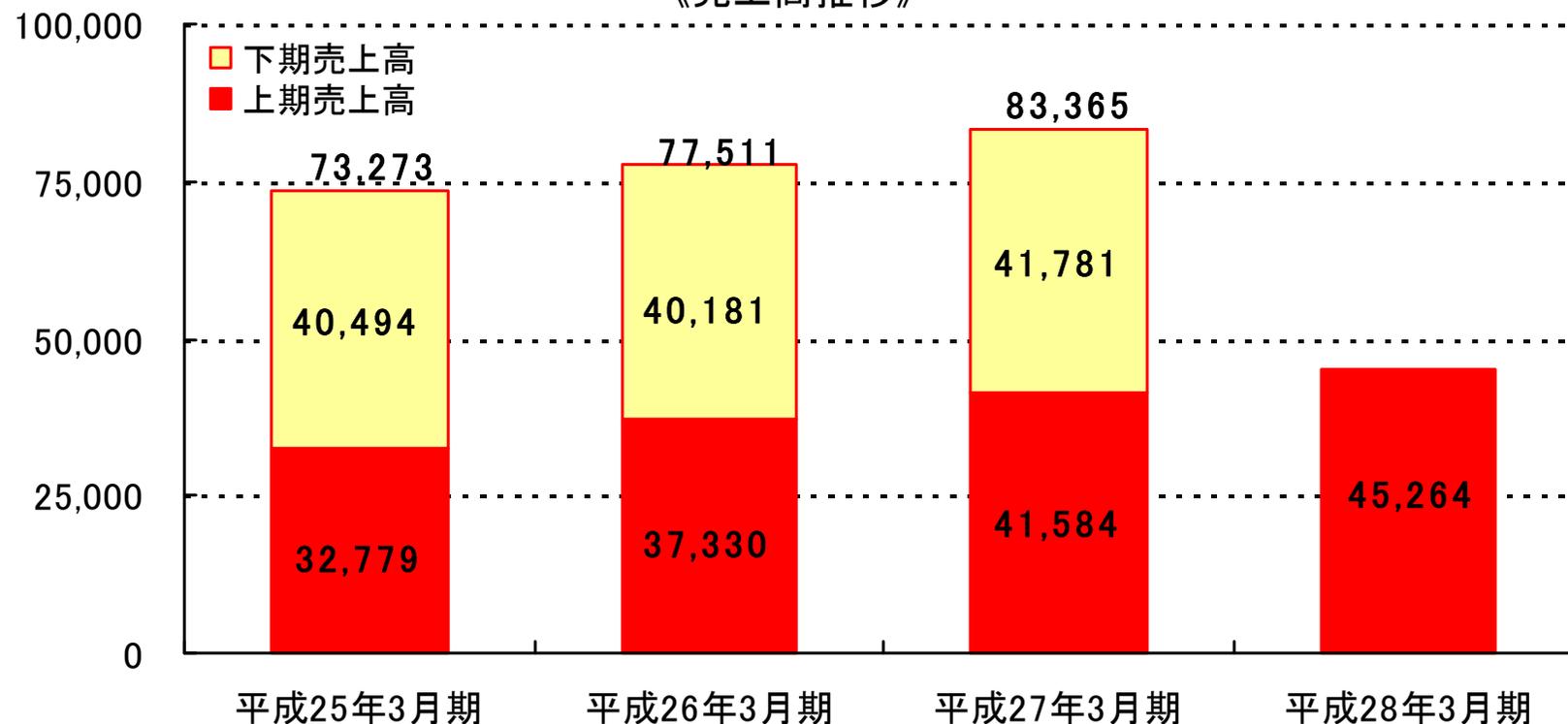
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	45,264	515	1.1%
前第2四半期	41,584	175	0.4%

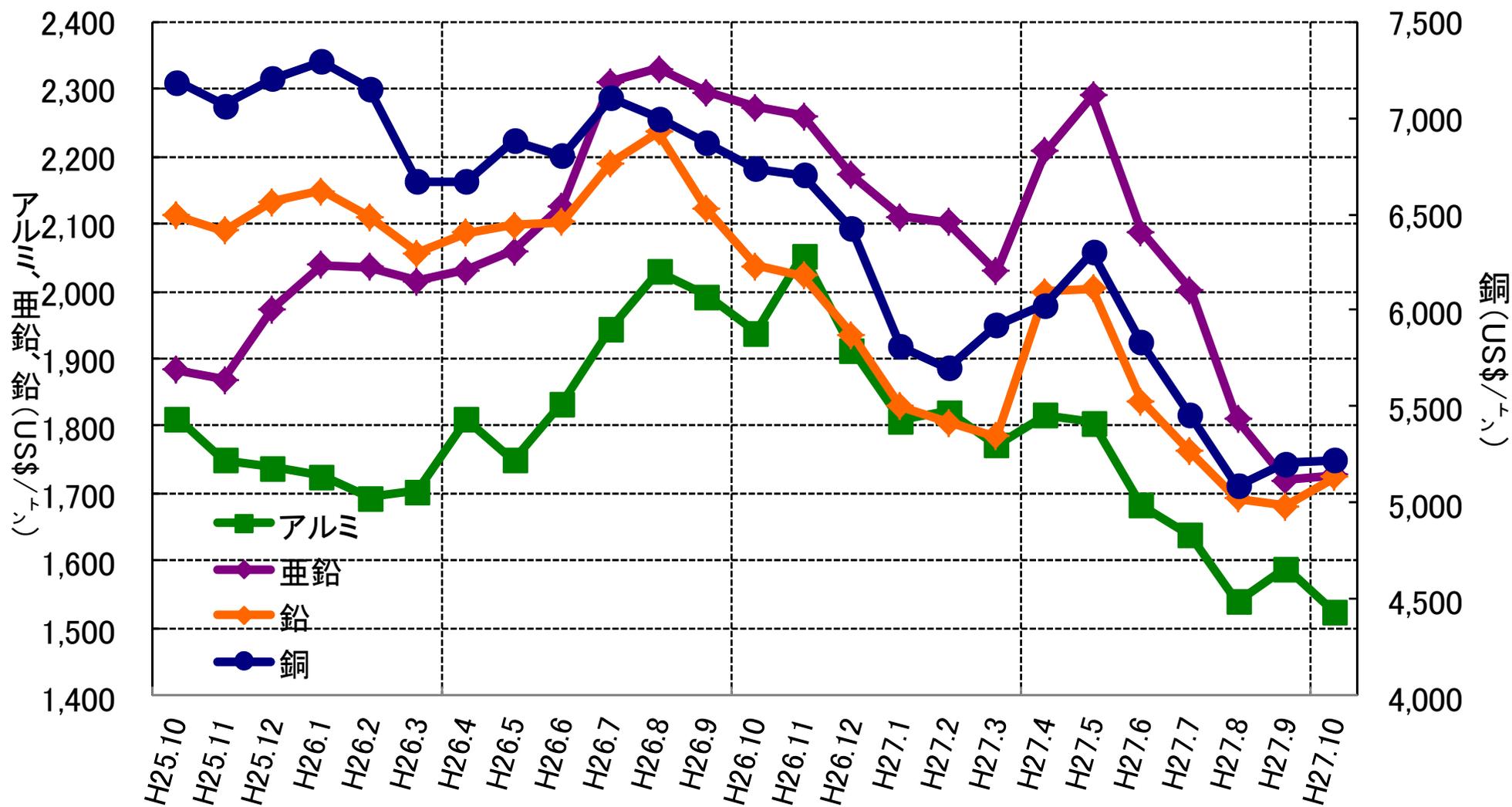
正起金属加工の新規連結影響に加え、銅、鉛、貴金属のスクラップの販売増が寄与。アルミニウムの対日プレミアムの急落により販売利益は圧迫されたが、前期の為替差損が縮小し、増益に。

《売上高推移》

(単位:百万円)



LME価格は中国経済の減速懸念から下落が続き、銅在庫の増加や人民元の切り下げも下げ要因として影響した。

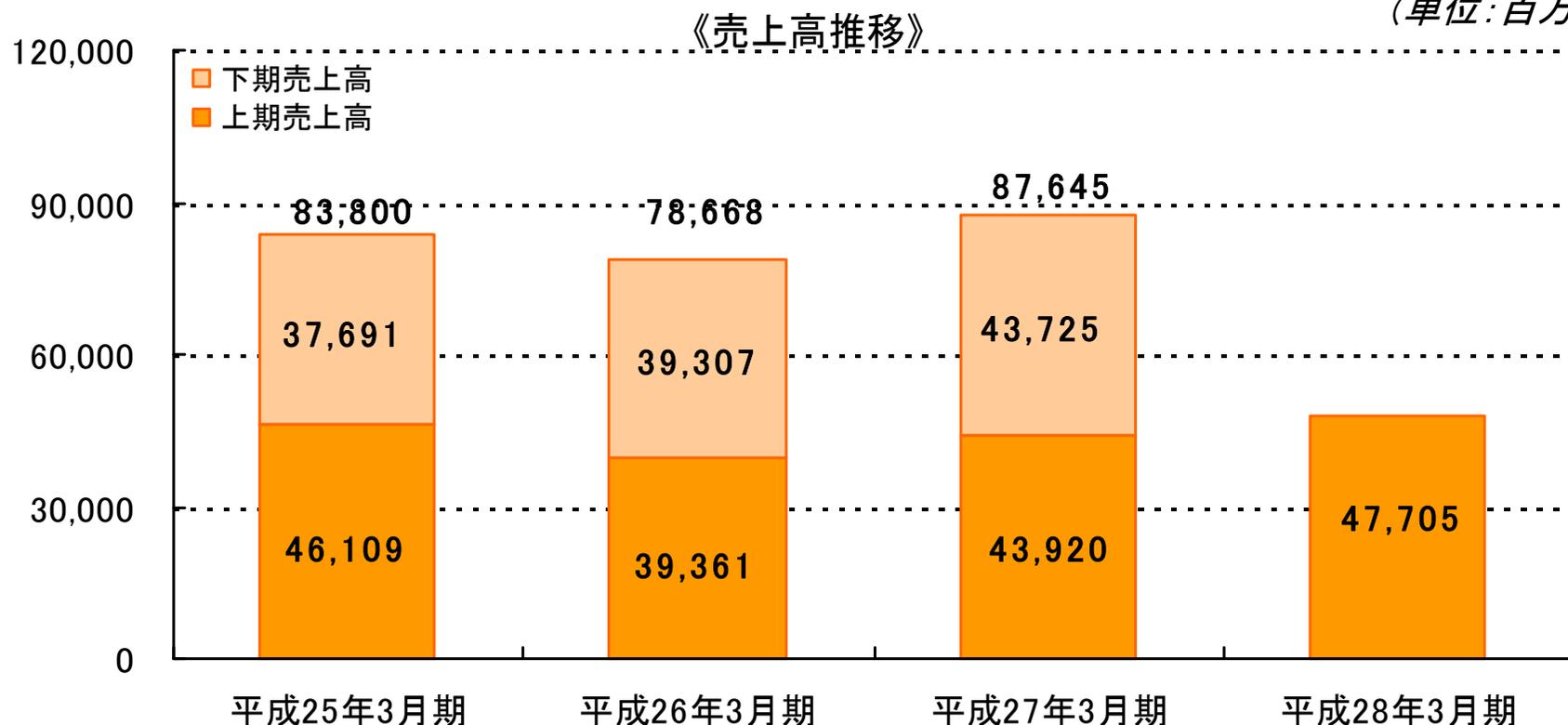


(単位:百万円)

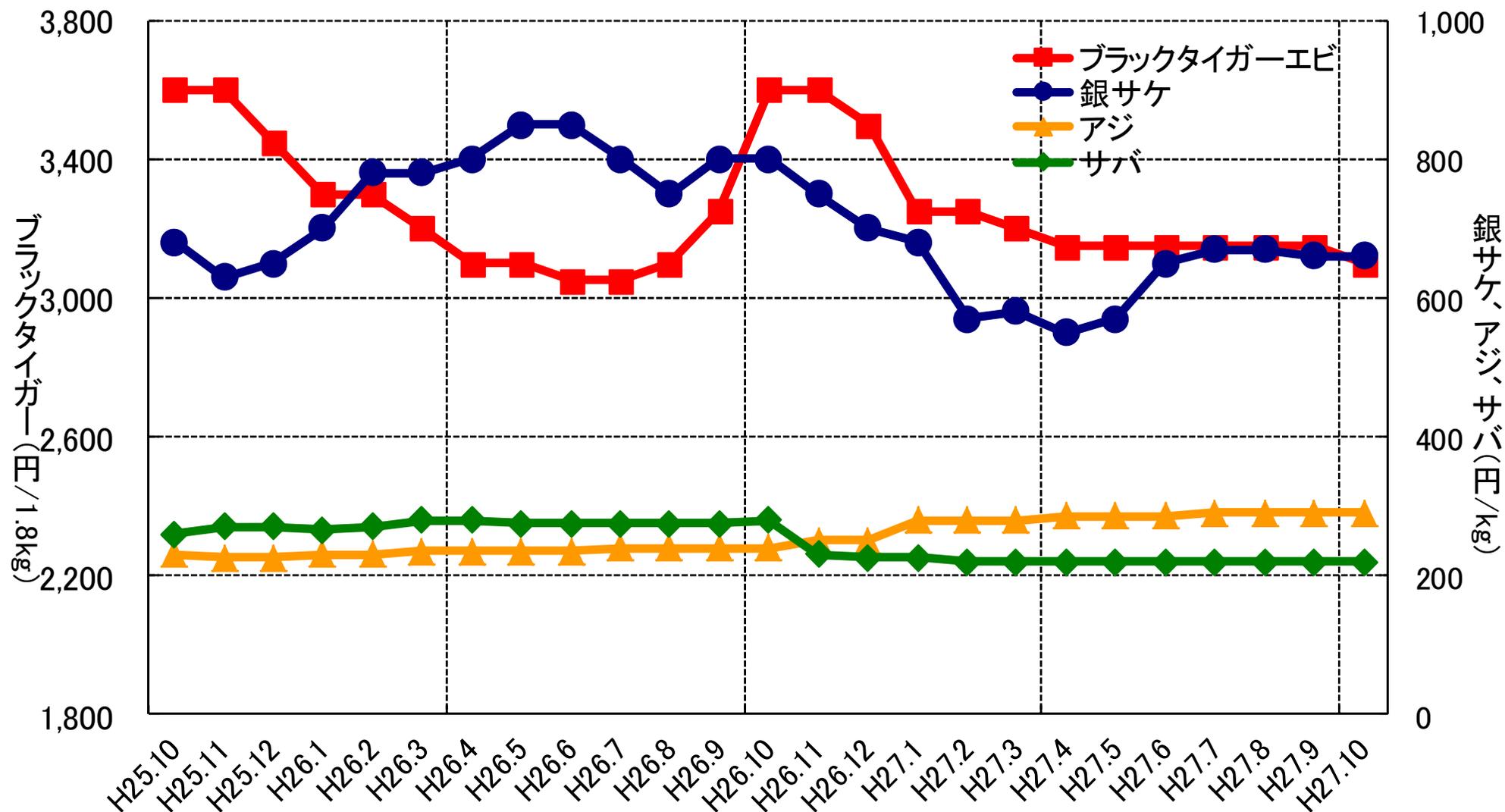
	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	47,705	△164	△0.3%
前第2四半期	43,920	593	1.4%

国内需要は低調に推移し、主力魚種の価格も前年同期に比べ低い水準にあった。新規連結したSeattle Shrimp Seafoodが売上増に寄与したものの、利益面では北米のエビ市況の下落により赤字となり足を引っ張った。

(単位:百万円)



国内市況は需要は低迷しているものの、円安の影響で足下は横ばい推移。海外の産地価格は、サケの現地価格は天然ものの豊漁で弱含み、エビは日米向けが低調で下落傾向にあった。

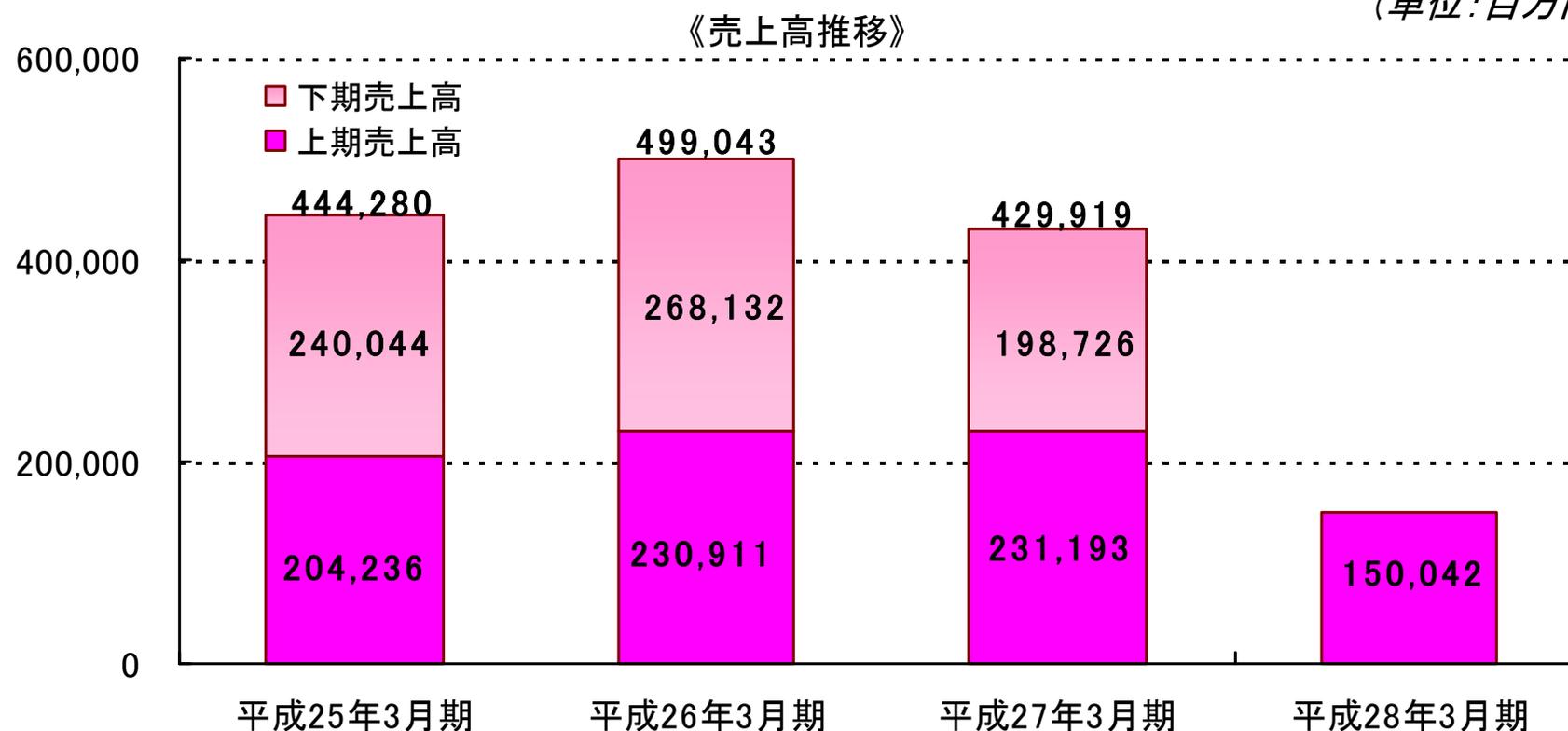


(単位:百万円)

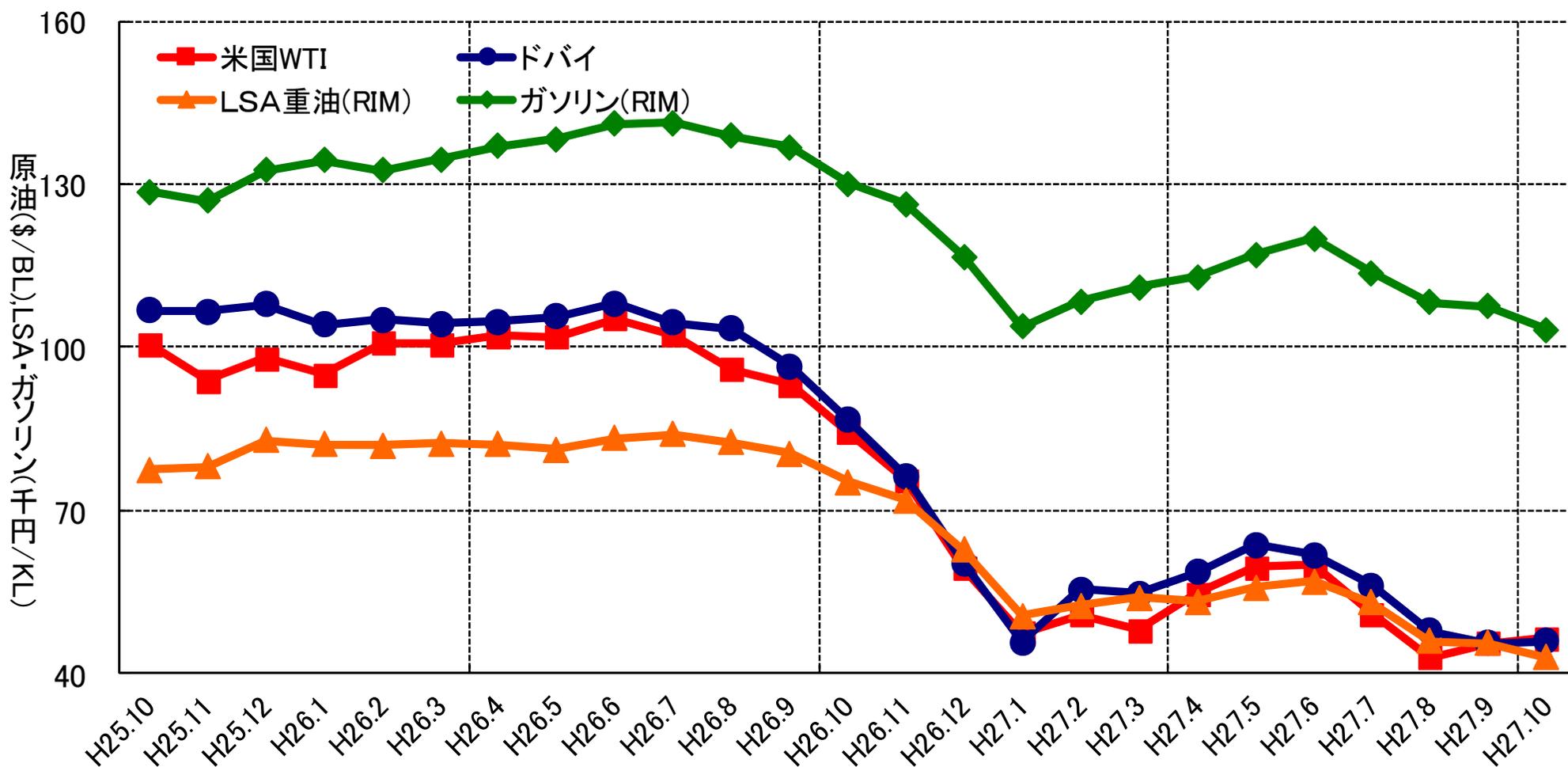
	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	150,042	1,006	0.7%
前第2四半期	231,193	1,204	0.5%

原油市況の下落に伴う石油製品価格の低下に加え、海運市況の低迷による船用石油需要の減少や、国内景気の停滞による産業用燃料の販売減が収益を押し下げた。

(単位:百万円)



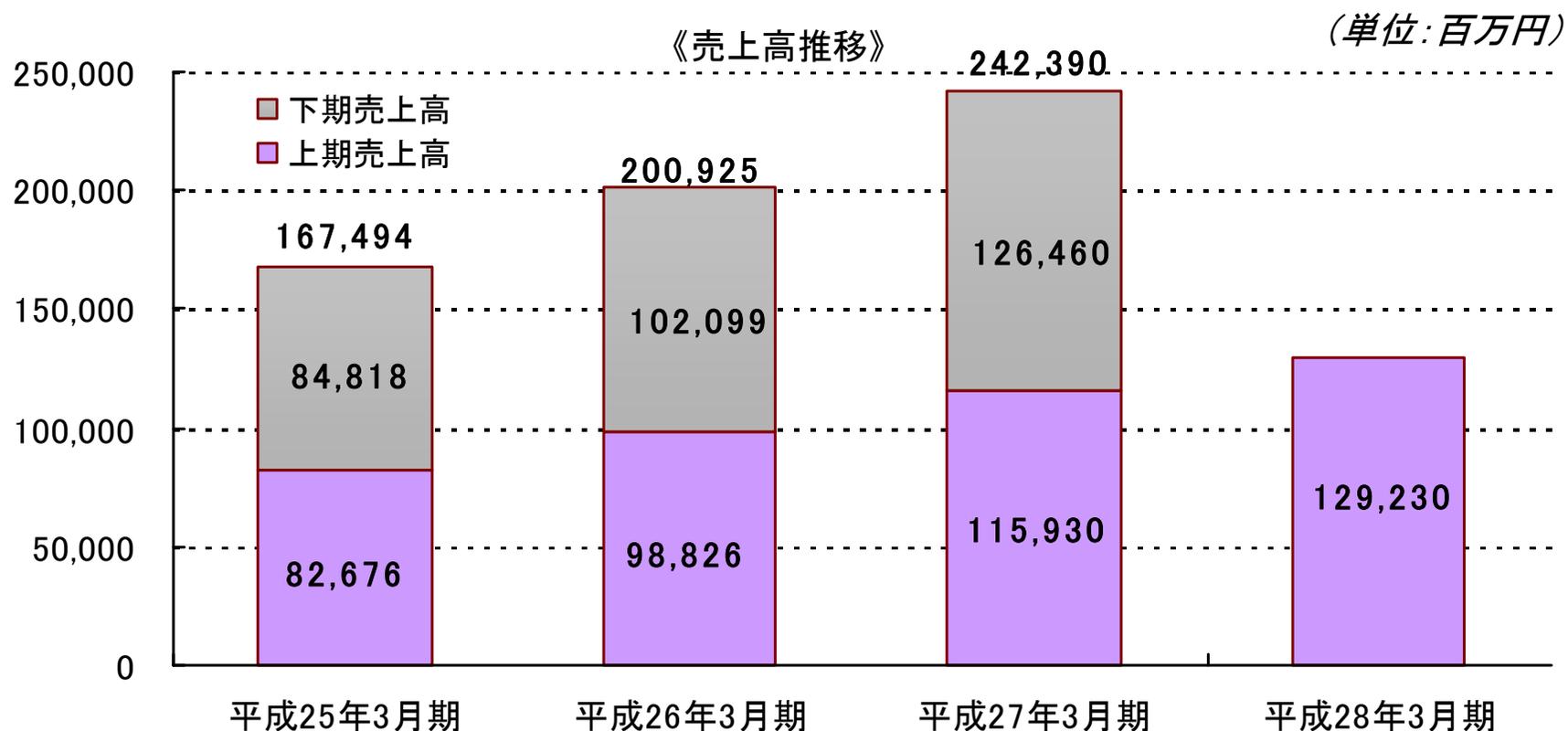
原油価格は前年度の急落以降、若干持ち直していたが、中国経済の減速や米国の在庫増、投資家の商品市場回避の動きなどもあり、再び下落に転じた。



(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	129,230	518	0.4%
前第2四半期	115,930	355	0.3%

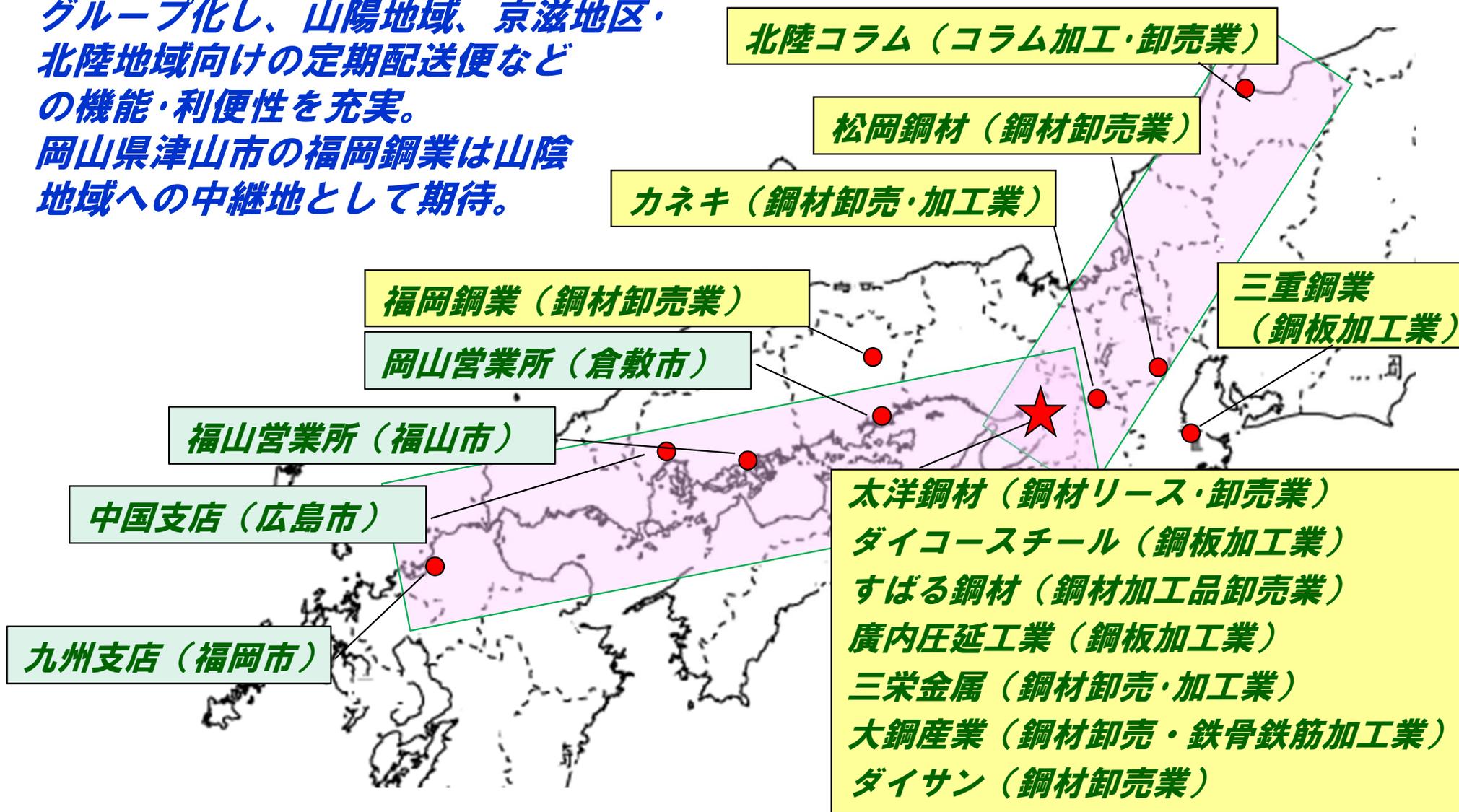
前年同期に比べ円安水準にあったことから海外販売子会社の円貨換算売上高が増加。利益面では前年同期に不振だった木材事業やアメリカ、上海の販売子会社の収益が改善した。



地域需要、小口需要の取り込みを図る「そこか（即納・小口・加工）戦略」を引き続き推進。

当上期は大阪地区で鋼材卸大手のダイサンと鋼材卸・工事手配の大鋼産業をグループ化し、山陽地域、京滋地区・北陸地域向けの定期配送便などの機能・利便性を充実。

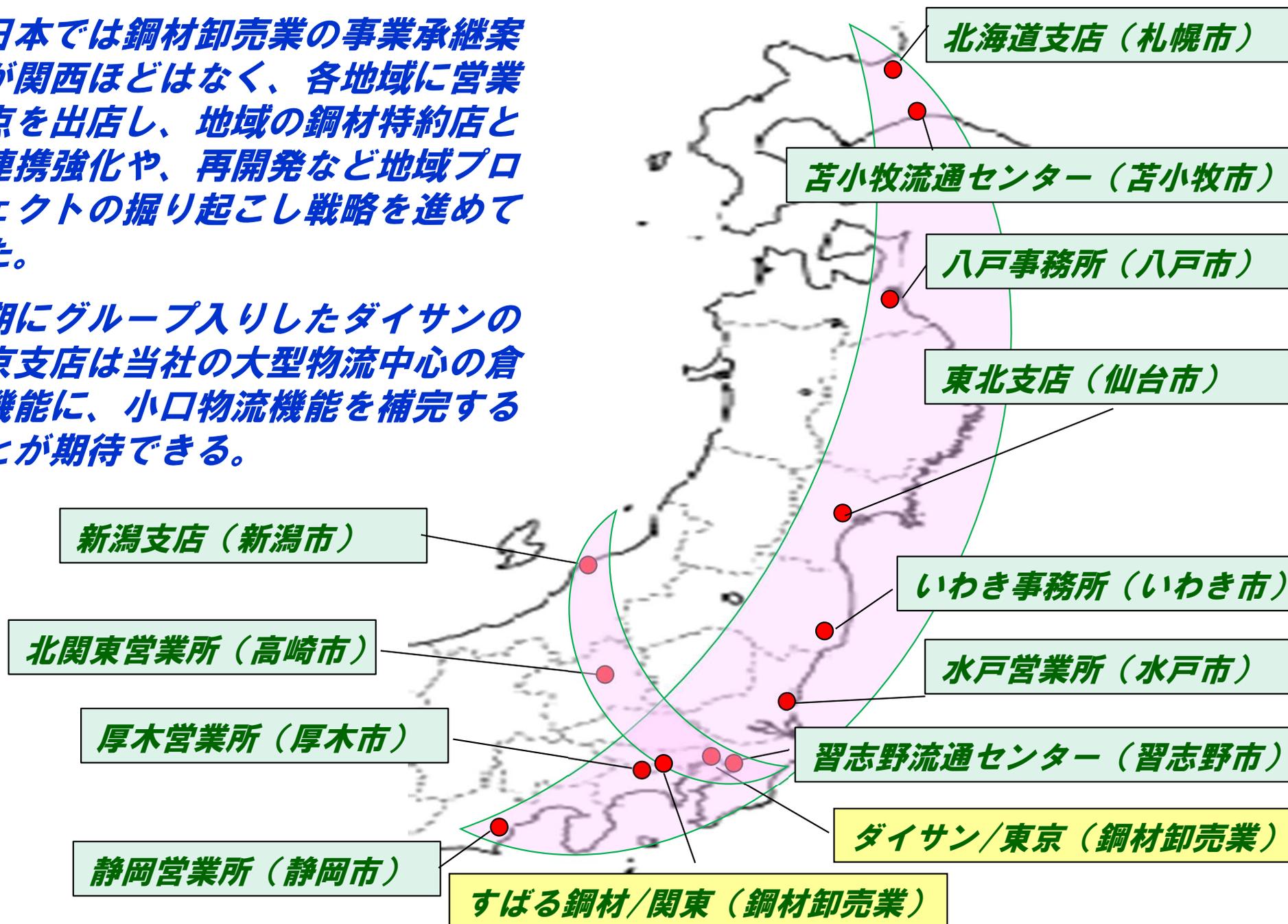
岡山県津山市の福岡鋼業は山陰地域への中継地として期待。



# 国内そこか戦略の進捗状況(東日本)

東日本では鋼材卸売業の事業承継案件が関西ほどはなく、各地域に営業拠点を新店し、地域の鋼材特約店との連携強化や、再開発など地域プロジェクトの掘り起こし戦略を進めてきた。

当期にグループ入りしたダイサンの東京支店は当社の大型物流中心の倉庫機能に、小口物流機能を補完することが期待できる。



# 平成28年3月期(通期)の連結業績予想

当上期は取引収益が想定を下回った他、持分法投資損失の発生等もあり、通期予想に対する進捗が遅かった。下期も期初に期待した需要の盛り上がりが見みにくい状況にあることから、通期予想を一部見直ししている。

配当は業績の下振れは経済環境等の変化によるところが大であるため、当初計画通り、中間配当は8円、期末配当8円を予定している。

(単位:百万円)

	第2四半期累計	通期予想	平成27年3月期
売上高	788,216	1,650,000	1,737,397
営業利益	8,170	20,000	19,107
経常利益	6,953	18,000	14,264
親会社株主に 帰属する当期純利益	6,053	12,000	9,086

	年間	中間	期末
1株当たり配当金	16円00銭	8円00銭	8円00銭

# (参考) 事業セグメント別予想

## 売上高

	当期予想	前期実績	前期比
鉄 鋼	825,000	878,715	△6.1%
金属原料	145,000	131,171	+10.5%
非鉄金属	90,000	83,365	+8.0%
食 品	91,000	87,645	+3.8%
石油・化成品	337,000	429,919	△21.6%
報告セグメント計	1,488,000	1,610,817	△7.6%
その他	274,000	242,390	+13.0%
合 計	1,762,000	1,853,208	△5.0%
調整額	△112,000	△115,810	△3.3%
PL計上額	1,650,000	1,737,397	△5.0%

## セグメント利益

(単位:百万円)

	当期予想	前期実績	前期比
鉄 鋼	13,900	14,735	△5.7%
金属原料	2,400	343	+599.7%
非鉄金属	1,000	1,146	△12.7%
食 品	400	583	△31.4%
石油・化成品	2,500	2,481	+0.8%
報告セグメント計	20,200	19,290	+4.7%
その他	1,900	683	+178.2%
合 計	22,100	19,973	+10.6%
調整額	△4,100	△5,709	△28.2%
PL計上額	18,000	14,264	+26.2%

**本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。**